

技 術 資 料



タフロックイチジカン耐火パック 仕様書 兼 施工要領書

品 番： TAFIPQ50 ~ TAFIPQ150

作 成 年 月 日： 2018年12月26日

ネグロス電工株式会社

技 術 部

承認	担当
	

1. 製品概要

タフロックイテジカン耐火パック(以下、本製品)は、断熱被覆付銅管、合成樹脂製可とう電線管、給・排水管、ガス管、電気配線用などが建築物内の防火区画である壁・床を貫通する際に、当該配管の貫通部分へ防火措置を行うための製品です。

2. 防耐火性能と適合範囲(国土交通大臣認定)

本製品は、建築基準法第 68 条の 26 第 1 項の規定に基づき、同法施行令第 129 条の 2 の 5 第 1 項第七号ハ「防火区画貫通部 1 時間遮炎性能」及び「防火区画貫通部 45 分間遮炎性能」の規定に適合するものとして、表-1 及び表-2、表-3 に記載の国土交通大臣認定(以下、「大臣認定」とする)を取得しています。なお、大臣認定番号により適合可能な構造(壁・床の材質、厚さなど)および貫通できる配管が異なりますので、詳細については大臣認定書をご参照ください。

表-1. 大臣認定番号および貫通壁・床の構造

部位	大臣認定番号*	貫通する壁・床の構造		壁・床の厚さ	開口部形状・面積
壁	PS060WL-0862 (PS060WL-0674)	中空壁	建築基準法施行令第129条の2の3第1項第一号口の規定に基づく準耐火構造(60分)(ただし両面強化せつこうボード重張に限る)又は建築基準法第2条第七号の規定に基づく耐火構造(60分)	80mm 以上	円形:φ160以下 面積:0.0201m ² 以下 鋼製スリーブあり又はなし: 厚さ0.25mm以上、長さ80mm以上 (中空壁等の場合)
		RC・ALC	ALCパネル(軽量気泡コンクリート)又は鉄筋コンクリート造		
	PS060WL-0995 (PS060WL-0624) (PS060WL-0812)	中空壁	建築基準法施行令第129条の2の3第1項第一号口の規定に基づく準耐火構造(60分)又は建築基準法第2条第七号の規定に基づく耐火構造(60分)	80mm 以上	円形:φ110以下 面積:0.0095m ² 以下 鋼製スリーブあり又はなし: 厚さ0.25mm以上、長さ80mm以上 (中空壁等の場合、壁面から最大60mmまで突出し可能)
		RC・ALC	ALCパネル(軽量気泡コンクリート)又は鉄筋コンクリート造		
	PS045WL-1019	中空壁	建築基準法第2条第七号の二の規定に基づく準耐火構造(45分)	74mm 以上	円形:φ160以下 面積:0.0201m ² 以下 鋼製スリーブあり: 厚さ0.25mm以上、長さ100mm以上
	床	PS060FL-0734	RC・ALC	ALCパネル(軽量気泡コンクリート)又は鉄筋コンクリート造	100mm 以上
PS060FL-1010 (PS060FL-0630) (PS060FL-0860)		RC・ALC	ALCパネル(軽量気泡コンクリート)又は鉄筋コンクリート造	100mm 以上	円形:φ160以下 面積:0.0201m ² 以下
PS060FL-1018		中空床	建築基準法施工令第129条の2の3第1項第一号口の規定に基づく準耐火構造(60分)又は建築基準法第2条第七号の規定に基づく耐火構造(60分)	189.5mm 以上	円形:φ160以下 面積:0.0201m ² 以下 鋼製スリーブあり又はなし: 厚さ0.25mm以上、長さ189.5mm以上 (中空床等の場合)
	RC・ALC	ALCパネル(軽量気泡コンクリート)又は鉄筋コンクリート造			

* それぞれ()内の認定番号の内容を全て含みます。

表-2. <壁>適合配管一覧

認定番号		PS045WL-1019	PS060WL-0862	PS060WL-0995	
占積率		53.9%以下	54.7%以下※ ¹	57.9%以下	
適合配管の種類 (最大サイズ) (被覆厚)	銅管(発泡ポリエチレン被覆他)※ ²	φ 38.1[20]	φ 44.5[20]	φ 15.9[10]	
	銅管(発泡ポリエチレン被覆他)※ ²	φ 38.1[20]	φ 42.7[20]	φ 13.8	
	ステンレス鋼管(発泡ポリエチレン被覆他)※ ²	φ 38.1[20]	φ 42.7[20]	φ 15.9	
	銅管(発泡合成ゴム被覆)※ ³	φ 38.1[20]	φ 54[38]	φ 15.9[10]	
	アルミニウム管(発泡ポリエチレン被覆他)※ ²	—	φ 15.9[20]	φ 15.9[10]	
	結露防止層付硬質塩化ビニル管	φ 76	φ 76	—	
	被覆付可とう塩化ビニル管(発泡ポリエチレン被覆他)※ ²	φ 37[6]	φ 37[6]	φ 37[6]	
	可とうポリエチレン管	φ 22	φ 22	φ 22	
	合成樹脂製可とう電線管	PF 管	呼び 42	呼び 54	呼び 28
		CD 管	呼び 54	呼び 36	呼び 36
	波付硬質合成樹脂管(FEP)	—	呼び 65	—	
	硬質塩化ビニル電線管(VE, HIVE)	呼び 82	呼び 82	—	
	合成樹脂製可とう管(さや管)	φ 36.5[10]	φ 44	φ 42[10]	
	耐熱ポリエチレン管(発泡ポリエチレン、発泡合成ゴム被覆他)※ ² ※ ³	—	—	φ 27[20]	
	ポリエチレン管(架橋含む)(発泡ポリエチレン被覆他)※ ²	φ 27[10]	φ 27[20]	φ 27[10]	
	被覆付ポリエチレン管(架橋含む)(オレフィン系エラストマー被覆)	φ 31[2](管 φ 27)	φ 31[2]	φ 31[2](管 φ 27)	
	被覆付耐熱ポリエチレン管(オレフィン系エラストマー被覆)	—	—	φ 31[2]	
	外傷防止被覆材付ポリエチレン管(架橋含む)	—	—	φ 32.8[0.2]	
	ポリブテン管(発泡ポリエチレン被覆他)※ ²	φ 27[10]	φ 27[20]	φ 27[10]	
	被覆付ポリブテン管(オレフィン系エラストマー被覆)	φ 31[2](管 φ 27)	φ 31[2]	φ 31[2](管 φ 27)	
	被覆付ポリブテン管(オレフィン系エラストマー・ウレタン被覆)	φ 29.5[1.25](管 φ 27)	φ 29.5[1.25]	φ 29.5[1.25](管 φ 27)	
	外傷防止被覆付ポリブテン管	—	—	φ 32.8[0.2]	
	ウレタン層付ポリブテン管	φ 33[3](管 φ 27)	φ 38[2](管 φ 34)	φ 31[2](管 φ 27)	
	金属強化ポリエチレン管	φ 25.1	φ 25.1	φ 25.1	
	金属強化ポリエチレン管(発泡ポリエチレン被覆他)※ ²	φ 25.1[20]	φ 25.1[20]	φ 25.1[10]	
	硬質ポリ塩化ビニル管(VP, VU, HIVP)	φ 114	φ 114	φ 38※ ⁴	
	硬質ポリ塩化ビニル管(VP, VU, HIVP)(発泡ポリエチレン被覆他)※ ²	φ 32[6]	φ 38[20]	φ 32 [10] ※ ⁴	
	耐熱性硬質ポリ塩化ビニル管(HT)	φ 114	φ 60	φ 38	
	耐熱性硬質ポリ塩化ビニル管(HT)(発泡ポリエチレン被覆他)※ ²	φ 32[6]	φ 38[20]	φ 38[6]、φ 32[10] ※ ⁵	
	リサイクル硬質ポリ塩化ビニル発泡三層管	—	—	—	
	無機物充てん層付硬質塩化ビニル二層管	—	—	—	
	ポリプロピレン管	—	φ 114	—	
ガラス繊維強化ポリプロピレン管(GRP)	—	φ 125	—		
ポリエステル系繊維補強層付塩化ビニル系ホース	—	—	φ 23		
ビニロン繊維補強層付 EPDM 系ゴム系ホース	—	—	φ 23		
塩ビ被覆ステンレス鋼フレキシブル管	φ 32.3	φ 32.3	φ 32.3		
電線・ケーブル	325 mm ² /本、975 mm ² /開口	325 mm ² /本、916 mm ² /開口	100 mm ² /本、315 mm ² /開口		

※1.配管条件が(1)~(3)の場合、占積率は以下の通りとなります。(1)塩化ビニル管(VP, VU, HIVP, HT)の組合せで使用する場合:58.3%以下、(2)銅管(被覆材:発泡合成ゴム)を単管で使用する場合:66.0%以下、(3)ガラス繊維強化ポリプロピレン管を単管で使用する場合:61.0%以下

※2.被覆材(後付用)を用いることのできる配管です。ここでいう被覆材とは、ポリエチレン系(架橋含む)、ポリウレタン系、ポリスチレン系、ポリプロピレン系、フェノール系、難燃ポリオレフィン系、グラスウール、ロックウールなどを指します。

※3.被覆材(後付用)を用いることのできる配管です。発泡合成ゴム被覆は、ニトリル・ブチル系(アーマフレックス・K-FLEX等)をさします。PS060FL-0734のみエチレンプロピレン系(エアロフレックス等)を含みません。

※4.VU管は使用できません。

※5.配管のサイズがφ38以下であれば6mm以下、φ32以下であれば10mm以下の被覆材を使用できます。

表-3. <床>適合配管一覧

認定番号		PS060FL-0734	PS060FL-1010	PS060FL-1018	
占積率		55.2%以下	58.2%以下※ ¹	54.3%以下	
適合配管の種類(最大サイズ(mm)〔被覆厚〕)	銅管(発泡ポリエチレン被覆他)※ ²	φ 44.5[20]	φ 44.5[20]	φ 38.1[20]	
	銅管(発泡ポリエチレン被覆他)※ ²	φ 42.7[20]	φ 42.7[20]	φ 38.1[20]	
	ステンレス鋼管(発泡ポリエチレン被覆他)※ ²	φ 42.7[20]	φ 42.7[20]	φ 38.1[20]	
	銅管(発泡合成ゴム被覆)※ ³	φ 44.5[20]	φ 54[38]	φ 38.1[20]	
	アルミニウム管(発泡ポリエチレン被覆他)※ ²	φ 15.9[20]	φ 15.9[20]	φ 19.1[10]	
	結露防止層付硬質塩化ビニル管	φ 76	φ 76	φ 76	
	被覆付可とう塩化ビニル管(発泡ポリエチレン被覆他)※ ²	φ 37[6]	φ 37[6]	φ 37[6]	
	可とうポリエチレン管	φ 22	φ 22	φ 22	
	合成樹脂製可とう電線管	PF 管	—	呼び 54	呼び 42
		CD 管	—	呼び 36	呼び 54
	波付硬質合成樹脂管(FEP)	—	呼び 65	—	
	硬質塩化ビニル電線管(VE, HIVE)	—	呼び 82	呼び 82	
	合成樹脂製可とう管(さや管)	—	φ 44	φ 36.5[10]	
	耐熱ポリエチレン管(発泡ポリエチレン、発泡合成ゴム被覆他)※ ² ※ ³	—	φ 27[20]	—	
	ポリエチレン管(架橋含む)(発泡ポリエチレン被覆他)※ ²	—	φ 27[20]	φ 27[10]	
	被覆付ポリエチレン管(架橋含む)(オレフィン系エラストマー被覆)	—	φ 31[2]	φ 31[2]	
	被覆付耐熱ポリエチレン管(オレフィン系エラストマー被覆)	—	φ 31[2]	—	
	外傷防止被覆材付ポリエチレン管(架橋含む)	—	φ 32.8[0.2]	—	
	ポリブテン管(発泡ポリエチレン被覆他)※ ²	—	φ 27[20]	φ 27[10]	
	被覆付ポリブテン管(オレフィン系エラストマー被覆)	—	φ 31[2]	φ 31[2]	
	被覆付ポリブテン管(オレフィン系エラストマー・ウレタン被覆)	—	φ 29.5[1.25]	φ 29.5[1.25]	
	外傷防止被覆付ポリブテン管	—	φ 32.8[0.2]	—	
	ウレタン層付ポリブテン管	—	φ 38[2](管 φ 34)	φ 33[3](管 φ 27)	
	金属強化ポリエチレン管	—	φ 63.1	φ 25.1	
	金属強化ポリエチレン管(発泡ポリエチレン被覆他)※ ²	—	φ 25.1[20]	φ 25.1[20]	
	硬質ポリ塩化ビニル管(VP, VU, HIVP)	φ 48※ ⁴	φ 114	φ 114	
	硬質ポリ塩化ビニル管(VP, VU, HIVP)(発泡ポリエチレン被覆他)※ ²	φ 48[6]※ ⁴	φ 38[6]	φ 32[6]	
	耐熱性硬質ポリ塩化ビニル管(HT)	φ 48	φ 114	φ 114	
	耐熱性硬質ポリ塩化ビニル管(HT)(発泡ポリエチレン被覆他)※ ²	φ 48[6]	φ 38[6]	φ 32[6]	
	リサイクル硬質ポリ塩化ビニル発泡三層管	—	φ 114	—	
	無機物充てん層付硬質塩化ビニル二層管	—	φ 114	—	
	ポリプロピレン管	—	φ 114	—	
ガラス繊維強化ポリプロピレン管(GRP)	—	φ 125	—		
ポリエステル系繊維補強層付塩化ビニル系ホース	—	φ 23	—		
ビニロン繊維補強層付 EPDM 系ゴム系ホース	—	φ 23	—		
塩ビ被覆ステンレス鋼フレキシブル管	—	φ 32.3	φ 32.3		
電線・ケーブル	38 mm ² /本、162 mm ² /開口	325 mm ² /本、1101 mm ² /開口	325 mm ² /本、1155 mm ² /開口		

※1 配管条件が(1)~(3)の場合、占積率は以下の通りとなります。(1)塩化ビニル管(VP, VU, HIVP, HT)の組合せで使用する場合:58.3%以下、(2)銅管(被覆材:発泡合成ゴム)を単管で使用する場合:66.0%以下、(3)ガラス繊維強化ポリプロピレン管を単管で使用する場合:61.0%以下

※2 被覆材(後付用)を用いることのできる配管です。ここでいう被覆材とは、ポリエチレン系(架橋含む)、ポリウレタン系、ポリスチレン系、ポリプロピレン系、フェノール系、難燃ポリオレフィン系、グラスウール、ロックウールなどを指します。

※3 被覆材(後付用)を用いることのできる配管です。発泡合成ゴム被覆は、ニトリル・ブチル系(アーマフレックス・K-FLEX 等)をさします。PS060FL-0734 のみエチレンプロピレン系(エアロフレックス等)を含みません。

※4 VU 管は使用できません。

※5 配管のサイズがφ38以下であれば6mm以下、φ32以下であれば10mm以下の被覆材を使用できます。

3. 品番および構成部材

本製品の品番と適合開口径、構成部材を表-4 に示します。

表-4. 品番と適合開口径、構成部材

品番	適合開口径(mm)		構成部材						
	ボイド管 (仕上り外径)	コア ドリル	耐火 パック (袋)	支え 金具 (個)	押さえ 金具 (個)	バックアップ材(本)		工法表示 ラベル (枚)	取扱 説明書 (枚)
						25×25×200	25×25×300		
TAFIPQ50	50(55)	55	各サイズ 1	各サイズ 1	各サイズ 1	1	—	1	1
TAFIPQ75	75(80)	80				—	1		
TAFIPQ100	100(106)	110				2	—		
TAFIPQ125	125(131)	135		1		1			
TAFIPQ150	150(157)	160		—		2			

4. 施工手順

本製品の施工手順を以下に示します。

⚠ 施工上の注意事項

施工にあたっては、防火区画において、配管が貫通する部分にあらかじめ開口部を設けておく必要があります。必要に応じた開口部仮枠の設置や躯体強度を考慮したうえでの鉄筋補強の切断可否等を協議のうえ、開口部を設けてください。

① 開口部の設置方法

施工する際の開口部は、ボイド管（紙筒）での仕上り寸法、またはコアドリルを用いて設置された開口寸法が標準となっており、新築工事、改修・追加工事いずれも対応できます。ボイド管により開口部を設けた場合には、必ず施工前に紙管を開口穴から取り去ったことを確認してください。寸法については下記の表を参照ください。

品番	適合開口径 (mm)	ボイド管のとき		コアドリルのとき
		呼び径	仕上り径 (mm)	仕上り径 (mm)
TAFIPQ50	50～55	50	55	55
TAFIPQ75	75～80	75	80	80
TAFIPQ100	100～110	100	106	110
TAFIPQ125	125～135	125	131	135
TAFIPQ150	150～160	150	157	160

② 開口部の間隔

開口部に充てんする工法のため、壁・床面に露出するのは支え金具の一部のみになり、開口部の間隔に関わりなく施工することが可能です。（但し、建物の構造強度をご参考の上、適正な開口間隔を設けてください。）

③ 中空壁及び中空床への施工の場合

中空壁及び中空床（せっこうボード壁等）に施工する際には、中空壁及び中空床（中空部分）と貫通部を仕切る鋼板等のスリーブが必要となります。なお、鋼板等のスリーブは認定条件^(注)を満足するものであれば、市販品をご使用頂いても、現場でご準備頂いても構いません。鋼板等のスリーブの設置方法や注意事項の詳細については、「6-3.中空壁及び中空床施工の場合」をご覧ください。

(注) 認定条件は下記のようになります。

PS060WL-0862、PS060WL-0995	板厚 0.25mm 以上、長さ 80mm 以上
PS045WL-1019	板厚 0.25mm 以上、長さ 100mm 以上
PS060FL-1018	板厚 0.25mm 以上、長さ 189.5mm 以上

④ 床施工時に鋼製スリーブが床上面に突き出す場合

床施工（鉄筋コンクリート・ALC造）する際に鋼製スリーブが床上面より突き出す場合には、以下のいずれかの方法にて鋼製スリーブを設置してください。なお、鋼板等のスリーブは認定条件（内径φ160以下、厚さ0.5mm以上、床上面突出し長さ100mm以下）を満足するもの（市販品等）をご使用ください。

(1) 鋼製スリーブ後付け施工の場合

ALCパネル又は鉄筋コンクリート造等の床にボイドまたはコアドリル等を使用して開口を設け、鋼製スリーブをセメントモルタルで埋め戻して下さい。

(2) 鋼製スリーブ先付け施工の場合

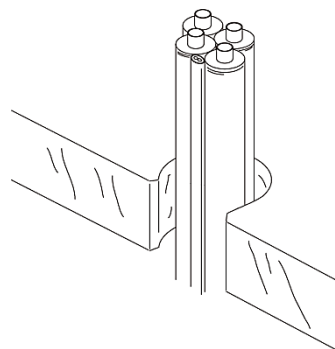
鉄筋コンクリート造等の床の場合に、鋼製スリーブを鉄筋又は型枠等に固定し、コンクリートに埋設して下さい。

5. 施工要領

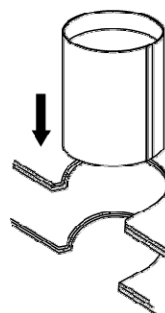
5-1. 床工法の場合(鋼製スリーブが床上面に突き出す場合も同様の施工となります)

① 開口部の清掃

配管・ケーブルに外傷等の異常がないことをチェックし束ねられ、開口部の中心にくるようにセットし、支持固定されていることを確認してください。

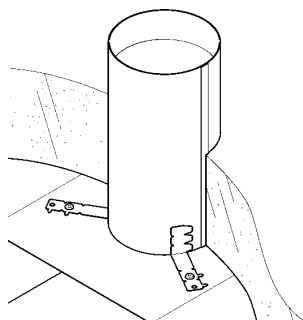


中空床の場合



中空床施工時は、鋼製スリーブをご使用ください。

※鋼製スリーブが床上面に突き出す場合は、別売品の止水用鋼製床丸スリーブ(TAFKYS□)が御使用頂けます。



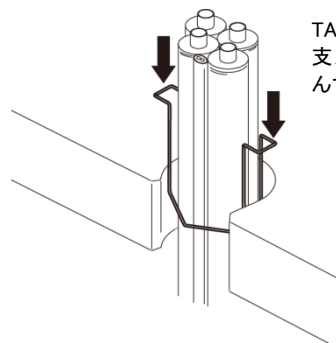
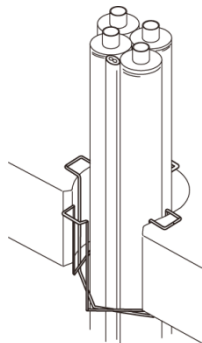
品番	適合		板厚(mm)
	開口径	床厚(mm)	
TAFKYS50	55	200 以下	0.5
TAFKYS75	80		
TAFKYS100	110		
TAFKYS125	135		
TAFKYS150	160		

※開口部とスリーブの間に隙間がある場合は、せっこうボード用目地処理材などで埋めてください。

② 支え金具の設置

支え金具を配管の周りにセットし、開口部に落とし込みます。

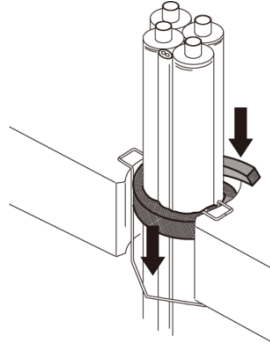
なお、品番 TAFIPQ125 および 150 については、支え金具が十字になるよう2個落とし込んでください。



TAFIPQ125,150 の場合
支え金具を2個落とし込んでください。

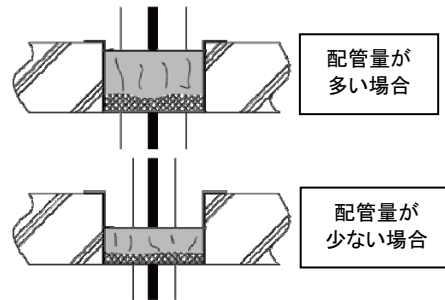
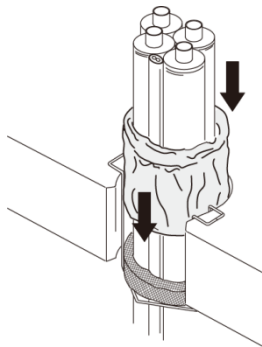
③ バックアップ材の設置

バックアップ材を配管周囲に巻きつけ、開口部に落とし込んで(押込む)ください。なお、配管の貫通状況等によりバックアップ材が押し込みにくい場合には、変形させながら押し込んでください。また、バックアップ材を切断もしくは不織布が破れた場合は、テープ等で補強してください。



④ 耐火パッキの巻き付け・充てん

配管周囲に巻き付けた耐火パッキを開口部に落とし込みながら充てんしてください。このとき、配管状況や形状に合わせて、耐火パッキを変形させ充てんしてください。

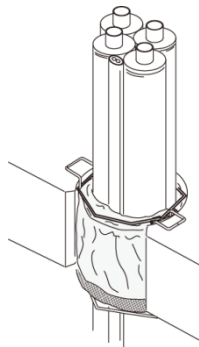


スラブの厚みや配管の占積率によってスラブ面と防火措置面との間に段差が生じますが、防火性能上問題はありません。

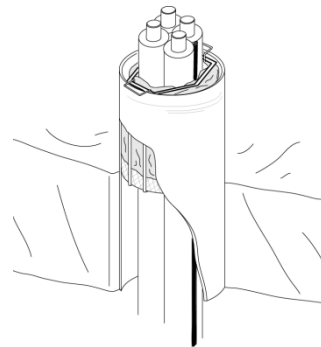
⑤ 押さえ金具の設置

押さえ金具を設置して施工完了です。

※押さえ金具の設置方法については、「6-4.押さえ金具の設置方法」を参照ください。



鋼製スリーブなしの場合

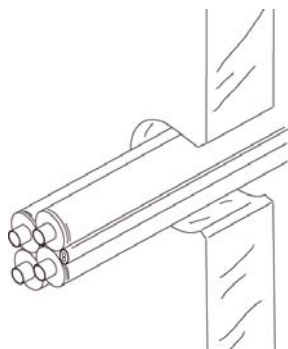


鋼製スリーブありの場合
(床上面に突出し)

5-2. 壁工法の場合

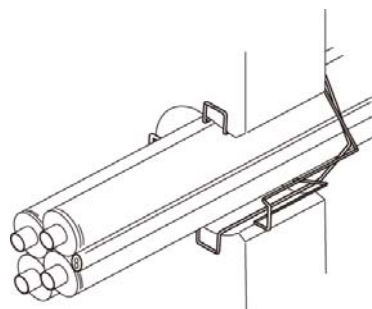
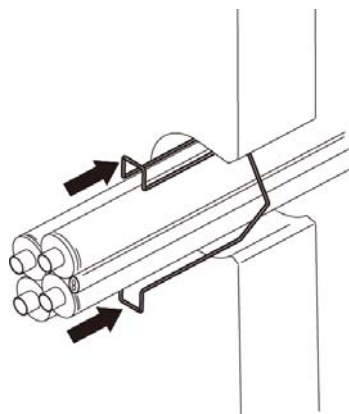
① 開口部の清掃

配管・ケーブルに外傷等の異常がないことをチェックし束ねられ、開口部の中心にくるようにセットし、支持固定されていることを確認してください。



② 支え金具の設置

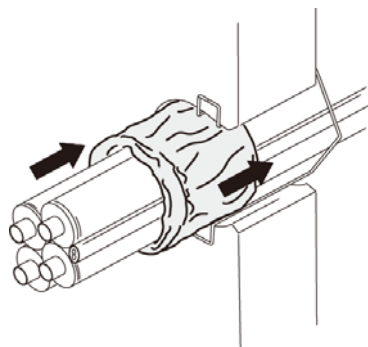
支え金具を配管の周りにセットし、開口部に挿入します。なお、品番 TAFIPQ125 および 150 については、支え金具が十字になるよう 2 個挿入してください。



TAFIPQ125,150 の場合
支え金具を 2 個挿入し
てください。

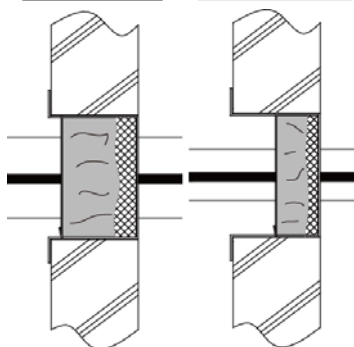
③ 耐火パッキの巻き付け・充てん

配管周囲に巻き付けた耐火パッキを開口部に押し込みながら充てんしてください。このとき、配管状況や形状に合わせて、耐火パッキを変形させ充てんしてください。



配管量が
多い場合

配管量が
少ない場合

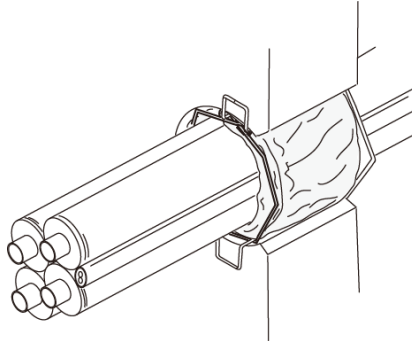


配管の占積率によって開口表面と防火措置面との間に段差が生じますが、防火性能上問題はありません。

④ 押さえ金具の設置

押さえ金具を設置して施工完了です。

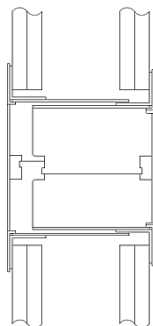
※押さえ金具の設置方法については、「6-4.押さえ金具の設置方法」を参照ください。



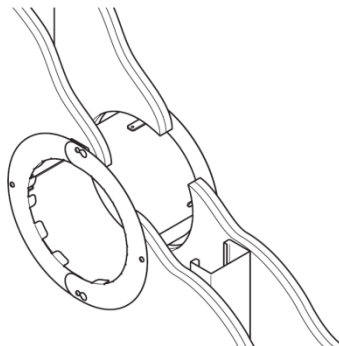
5-3. 中空壁及び中空床工法の場合

(1) 弊社製品をご使用頂く場合

中空壁には、別売品のおめかしマルスリーブ(OMS口)が御使用頂けます。



施工断面図

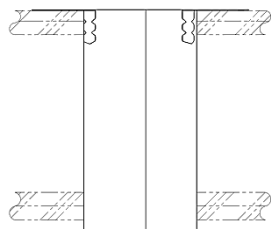


施工完成図

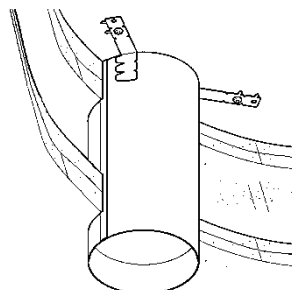
品番	適合		板厚(mm)
	開口径	壁厚(mm)	
OMS75	80~90	100~170	0.5
OMS100	110~120		
OMS125	135~145		
OMS150	160~175		

※TAFIPQ50を施工する場合は、市販品スリーブをお使い下さい。

中空床には、別売品の止水用鋼製床丸スリーブ(TAFKYS口)が御使用頂けます。



施工断面図



施工完成図

品番	適合		板厚(mm)
	開口径	床厚(mm)	
TAFKYS50	55	200以下	0.5
TAFKYS75	80		
TAFKYS100	110		
TAFKYS125	135		
TAFKYS150	160		

※開口部とスリーブの間に隙間がある場合は、せっこうボード用目地処理材などで埋めてください。

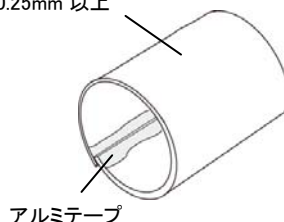
(2)市販品スリーブをご使用の場合

① 鋼板等のスリーブの用意とアルミテープ貼付け

認定条件を満たした鋼板等のスリーブを用意します。このとき、開口径になじませるよう鋼板等の重ね合わせ面をアルミテープで固定することにより、防火措置材の施工がしやすくなります。

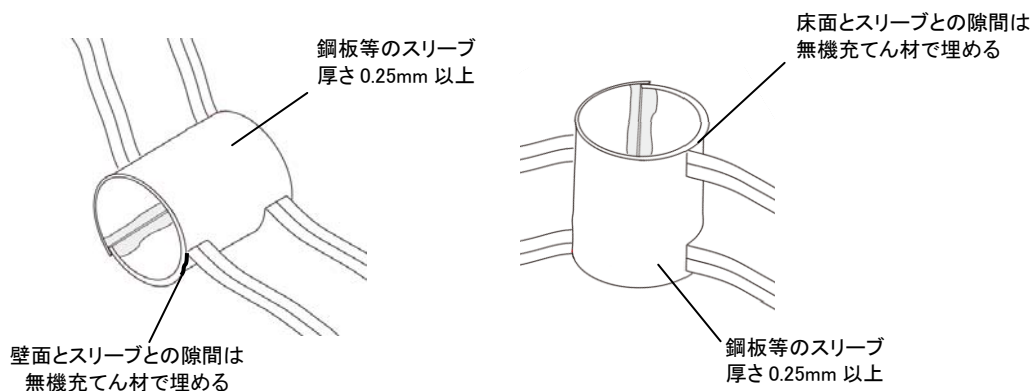
※板状の鋼板を丸め込んで頂いても構いません。

鋼板等のスリーブ
厚さ 0.25mm 以上



② スリーブの挿入

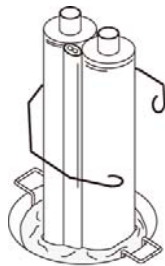
上記の加工を行ったスリーブを開口形状に合わせてはめ込みます。なお、中空壁及び中空床に開口を設置するときは、出来るだけ丁寧に作業するように心がけてください。また、壁面及び床面（せっこうボード等）とスリーブとの隙間は、無機充填材（せっこうボード用目地材や耐火パテ等）で埋めてください。



5-4. 押さえ金具の設置方法(壁・床・中空壁・中空床工法同様)

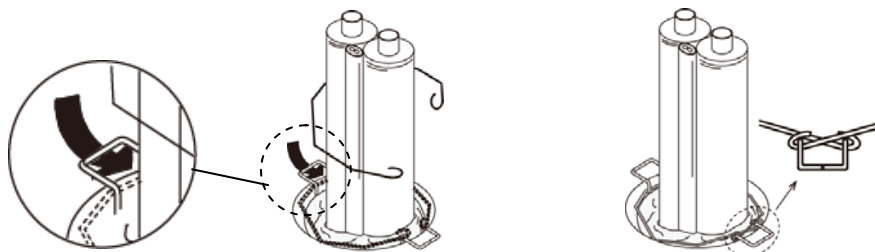
① 金具の挿入

金具端部を拡げ配管を挟み込み、開口部へ落とし込みます。



② 支え金具への固定

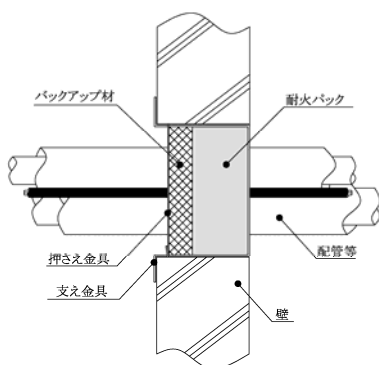
開口部へ落とし込んだ押さえ金具を、支え金具と開口の間に挿入します。もう一方の端末(拡径側)を支え金具にクロスさせるようにフッキングさせ、開口の中に支え金具を全て収めて完了です。



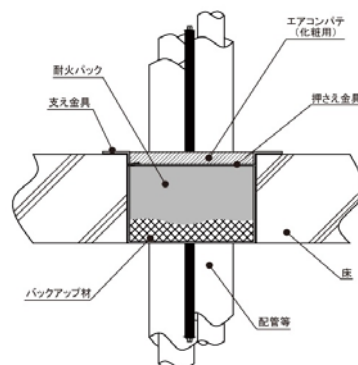
5-5. 開口部の化粧について(壁・床・中空壁・中空床工法同様)

壁面(床面)と防火処置面との間に生じた段差が気になる場合には、必要に応じ化粧用として所定量(200g以下)の充てん材(パテ状:弊社製品「ダンシール KP」、市販のエアコンパテなど)もしくは、バックアップ材により化粧処理が可能です。詳しくは、弊社技術窓口までお問い合わせください。

※PS045WL-1019(45分準耐火壁)のみ、パテ充てん材による化粧処理はできません。



バックアップ材を施工(壁の場合)



エアコンパテを施工

6. 品番選定

6-1. 計算による最適品番の選定方法

配管サイズ・本数の組み合わせについては、以下を参考に、適合する品番を選定して下さい。

表-5. 開口径有効措置径及び収容可能面積

品番	開口径 (mm)	有効措置径 (mm)	開口面積 (mm ²)	①配管の最大収容面積(mm ²)※ (()内は各占積率に対応する国土交通大臣認定番号)		
				占積率53.9%の場合 (PS045WL-1019)	占積率54.3%の場合 (PS060FL-1018)	占積率54.7%の場合 (PS060FL-0862)
TAFIPQ 50	55	27	2,375	1,280	1,289	1,299
TAFIPQ 75	80	55	5,024	2,707	2,728	2,748
TAFIPQ100	110	75	9,499	5,119	5,157	5,195
TAFIPQ125	135	100	14,307	7,711	7,768	7,825
TAFIPQ150	160	125	20,096	10,831	10,912	10,992

品番	① 配管の最大収容面積(mm ²)※ (()内は各占積率に対応する国土交通大臣認定番号)				
	占積率55.2%の場合 (PS060FL-0734)	占積率57.9%の場合 (PS060WL-0995)	占積率58.2%の場合 (PS060WL-0862)	占積率58.3%の場合 (PS060WL-0862、 PS060FL-1010)	占積率59.1%の場合 (PS060WL-0862)
TAFIPQ 50	1,311	1,375	1,382	1,384	1,403
TAFIPQ 75	2,773	2,908	2,923	2,928	2,969
TAFIPQ100	5,243	5,499	5,528	5,537	5,613
TAFIPQ125	7,897	8,283	8,326	8,340	8,455
TAFIPQ150	11,092	11,635	11,695	11,715	11,876

品番	①配管の最大収容面積(mm ²)※ (()内は各占積率に対応する国土交通大臣認定番号)		② 貫通させる配管の断面積合計 (mm ²)
	占積率61.0%の場合 (PS060WL-0862、 PS060FL-1010)	占積率66.0%の場合 (PS060WL-0862、 PS060FL-1010)	
TAFIPQ 50	1,448	1,567	実際に貫通させる配管の外径から 算出して下さい。(下記計算例参照)
TAFIPQ 75	3,064	3,316	
TAFIPQ100	5,794	6,269	
TAFIPQ125	8,727	9,443	
TAFIPQ150	12,258	13,263	

品番	③適合品番	④収容可能な開口径
TAFIPQ 50	①≥② (①以下)	有効措置径 ≥ 太い2本の外径の合計 (5～7本の場合は太い3本の外径の合計)
TAFIPQ 75		
TAFIPQ100		
TAFIPQ125		
TAFIPQ150		

※「配管の最大収容面積」＝「開口面積」×「各国土交通大臣認定番号における占積率(%)」

① <収容可能な配管量の確認＝配管の最大収容面積の選定>		
表-5より、開口径に対して配管の最大収容面積を選定し、収容可能な配管量を確認して下さい。 ※貫通させる配管の種類と貫通する箇所の構造、対応する国土交通大臣認定番号を本書の表-1～表-3でご確認のうえ、表-5の「配管の最大収容面積」部分を参照してください。		
② <貫通させる配管の断面積(合計値)の算出>		
実際に貫通させる配管の外径より、断面積を算出して下さい(複数本貫通する場合は各配管の断面積の合計になります)。		
③ <品番の選定>		
これらの算出結果より、① \geq ②の条件を満たす品番を選定して下さい。		
④ <貫通させる配管が収容可能かどうか＝施工可否の確認>		
配管の外径が、開口径に収容可能かを上表の有効措置径で確認して下さい。		
⑤ <最適品番の選定>		
最終的に、③と④の条件を満たす品番のうち、一番小さいサイズの品番が最適の品番です。		
【例】断熱被覆銅管 19.05(ガス管)／12.7(液管)が中空壁を貫通する場合 (→認定番号 PS060WL-0862、最大占積率 54.7%)		
<table border="1"> <tr> <td>19.05(被覆 10)の外径・断面積 → $19.05 + (10 \times 2) = 39.05(\text{mm})$: $\{(19.05 + (10 \times 2)) / 2\}^2 \times 3.14 = 1197\text{mm}^2$</td> </tr> <tr> <td>12.70(被覆 10)の外径・断面積 → $12.70 + (10 \times 2) = 32.70(\text{mm})$: $\{(12.70 + (10 \times 2)) / 2\}^2 \times 3.14 = 840\text{mm}^2$</td> </tr> </table>	19.05(被覆 10)の外径・断面積 → $19.05 + (10 \times 2) = 39.05(\text{mm})$: $\{(19.05 + (10 \times 2)) / 2\}^2 \times 3.14 = 1197\text{mm}^2$	12.70(被覆 10)の外径・断面積 → $12.70 + (10 \times 2) = 32.70(\text{mm})$: $\{(12.70 + (10 \times 2)) / 2\}^2 \times 3.14 = 840\text{mm}^2$
19.05(被覆 10)の外径・断面積 → $19.05 + (10 \times 2) = 39.05(\text{mm})$: $\{(19.05 + (10 \times 2)) / 2\}^2 \times 3.14 = 1197\text{mm}^2$		
12.70(被覆 10)の外径・断面積 → $12.70 + (10 \times 2) = 32.70(\text{mm})$: $\{(12.70 + (10 \times 2)) / 2\}^2 \times 3.14 = 840\text{mm}^2$		
<ol style="list-style-type: none"> 1. 収容可能な配管の断面積 : 上表から TAFIPQ75 は 2,748mm² 2. 貫通する配管の断面積の合計 : 上記から 1197 + 840 = 2037mm² 3. これらの算出結果より、①2,748mm²(TAFIPQ75) > ②2037mm² > ③1,299mm²(TAFIPQ50) 4. 配管の外径が、$39.05 + 32.70 = \mathbf{71.75\text{mm}}$ < 75mm (TAFIPQ100 の有効措置径) 		
従って、TAFIPQ100 が最適の品番になります。 ※ご注意(重要) 付随する電線・ケーブルと合わせて施工される際は各々の断面積を追加して下さい。		

6-2. 品番(開口径)に対する選定(空調配管(発泡ポリエチレン被覆銅管)、2管式の場合)
 各配管組合せに対し、各品番(開口径)を適合した場合の貫通可能系統数を以下に示します。
 各表の欄に記載された数字は、当該開口径・品番の際に**貫通可能な系統数**を示します。

①	ガス管側の断熱被覆(保温材)の厚みは、各表の系統数が記載された欄の左側が 10mm 厚(2分・3分の配管については 8mm 厚)、右側が 20mm 厚の場合を示しています。また、2分・3分の配管は液管の保温材厚みは 8mm 厚を想定しております。
②	各表は仕上り貫通穴径(コアドリル径=各品番の最大適合開口径)に対して施工した場合の目安です。
③	配管 1 系統につき制御ケーブル(CVV2mm ² ×4C 相当、外径φ11.5)1 本を同時貫通させた場合を想定しています。
④	各欄の「-」部分は、当該品番が適合できないことを示します。
⑤	ガス管・液管ともに断熱被覆(保温材)の厚みが 20mm の場合は、7-3.項をご参照ください。

表-6. 貫通可能系統数(品番 TAFIPQ75 の場合)

液管 \ ガス管	呼び径	2 分		3 分	
	外径	6.4		9.5	
	ガス管保温厚	10mm	20mm	10mm	20mm
3 分	9.5	1	-		
4 分	12.7	1	-	1	-

※表内の数字は系統数を示します。

表-7. 貫通可能系統数(品番 TAFIPQ100 の場合)

液管 \ ガス管	呼び径	2 分		3 分		4 分		5 分		6 分		7 分		1 インチ	
	外径	6.4		9.5		12.7		15.9		19.1		22.2		25.4	
	ガス管保温厚	10mm	20mm	10mm	20mm	10mm	20mm	10mm	20mm	10mm	20mm	10mm	20mm	10mm	20mm
3 分	9.5	3	1												
4 分	12.7	2	1	2	1										
5 分	15.9	2	1	2	1	1	1								
6 分	19.1	2	1	2	1	1	1	1	1						
7 分	22.2	1	1	1	1	1	-	1	-	1	-				
1 インチ	25.4	1	1	1	1	1	-	1	-	1	-	1	-		
1 インチ 1 分	28.6	1	1	1	1	1	-	1	-	1	-	1	-	1	-
1 インチ 2 分	31.8	1	-	1	-	1	-	1	-	1	-	1	-	1	-
1 インチ 3 分	34.9	1	-	1	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-
1 インチ 4 分	38.1	1	-	1	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-
1 インチ 5 分	41.3	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
1 インチ 6 分	44.5	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

※表内の数字は系統数を示します。

表-8. 貫通可能系統数(品番 TAFIPQ125 の場合)

液管 ガス管	呼び径	2分		3分		4分		5分		6分		7分		1インチ	
	外径	6.4		9.5		12.7		15.9		19.1		22.2		25.4	
	ガス管保温厚	10mm	20mm	10mm	20mm	10mm	20mm	10mm	20mm	10mm	20mm	10mm	20mm	10mm	20mm
3分	9.5	5	2												
4分	12.7	4	2	3	2										
5分	15.9	3	1	3	1	2	1								
6分	19.1	3	1	3	1	2	1	2	1						
7分	22.2	3	1	2	1	2	1	2	1	2	1				
1インチ	25.4	2	1	2	1	2	1	2	1	2	1	1	1		
1インチ1分	28.6	2	1	2	1	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1
1インチ2分	31.8	2	1	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
1インチ3分	34.9	2	1	2	1	1	1	1	1	1	-	1	-	1	-
1インチ4分	38.1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	-	1	-	1	-
1インチ5分	41.3	1	-	1	-	1	-	1	-	1	-	1	-	1	-
1インチ6分	44.5	1	-	1	-	1	-	1	-	1	-	1	-	1	-

※表内の数字は系統数を示します。

表-9. 貫通可能系統数(品番 TAFIPQ150 の場合)

液管 ガス管	呼び径	2分		3分		4分		5分		6分		7分		1インチ	
	外径	6.4		9.5		12.7		15.9		19.1		22.2		25.4	
	ガス管保温厚	10mm	20mm	10mm	20mm	10mm	20mm	10mm	20mm	10mm	20mm	10mm	20mm	10mm	20mm
3分	9.5	8	3												
4分	12.7	6	3	6	3										
5分	15.9	6	2	5	2	4	2								
6分	19.1	5	2	4	2	4	2	3	2						
7分	22.2	4	2	4	2	3	2	3	2	3	2				
1インチ	25.4	4	2	4	2	3	2	3	1	3	1	2	1		
1インチ1分	28.6	4	2	3	2	3	1	3	1	2	1	2	1	2	1
1インチ2分	31.8	3	2	3	2	3	1	2	1	2	1	2	1	2	1
1インチ3分	34.9	2	1	2	1	2	1	2	1	2	1	2	1	2	1
1インチ4分	38.1	2	1	2	1	2	1	2	1	2	1	2	1	2	1
1インチ5分	41.3	2	1	2	1	2	1	2	1	2	1	2	1	2	1
1インチ6分	44.5	2	1	2	1	2	1	2	1	2	1	1	1	1	1

※表内の数字は系統数を示します。

6-3. 配管組合せに対する選定(空調配管(発泡ポリエチレン被覆銅管)、2管式の場合)

各配管組合せに対する最適品番を以下に示します。各表の欄に記載された記号は、当該配管組合せの際に**最適な品番(=開口径)**を示します。

①	断熱被覆(保温材)の厚みは、各表の系統数が記載された欄の左側が液管・ガス管とも10mm厚(2分・3分の配管については8mm厚)、中央が液管10mm厚(2分・3分の配管については8mm厚)・ガス管20mm厚、右側が液管・ガス管とも20mm厚の場合を示しています。
②	各表は仕上り貫通穴径(コアドリル径=各品番の最大適合開口径)に対して施工した場合の目安です。
③	配管1系統につき制御ケーブル(CVV2mm ² ×4C相当、外径φ11.5)1本を同時貫通させた場合を想定しています。
④	各欄の「-」部分は、適合可能な品番が無いことを示します。

表-10. 配管組合せに対する最適品番表

液管 ガス管	呼び径	2分			3分			4分			5分			6分			7分			1インチ		
	外径	6.4			9.5			12.7			15.9			19.1			22.2			25.4		
	液管保温厚	10	10		10	10	20	10	10	20	10	10	20	10	10	20	10	10	20	10	10	20
	ガス管保温厚	10	20		10	20	20	10	20	20	10	20	20	10	20	20	10	20	20	10	20	20
3分	9.5	▲	■																			
4分	12.7	▲	■	▲	■	●																
5分	15.9	■	■	■	■	★	■	■	★													
6分	19.1	■	■	■	■	★	■	■	★	■	■	★										
7分	22.2	■	■	■	■	★	■	●	★	■	●	★	■	●	★							
1インチ	25.4	■	■	■	■	★	■	●	★	■	●	★	■	●	★	■	●	-				
1インチ1分	28.6	■	■	■	■	★	■	●	★	■	●	-	■	●	-	■	●	-	■	●	-	
1インチ2分	31.8	■	●	■	●	★	■	●	★	■	●	-	■	●	-	■	●	-	■	●	-	
1インチ3分	34.9	■	●	■	●	★	■	●	-	■	●	-	●	★	-	●	★	-	●	★	-	
1インチ4分	38.1	■	●	■	●	-	■	●	-	■	●	-	●	★	-	●	★	-	●	★	-	
1インチ5分	41.3	■	★	●	★	-	●	★	-	●	★	-	●	★	-	●	★	-	●	★	-	
1インチ6分	44.5	■	★	●	★	-	●	★	-	●	★	-	●	★	-	●	★	-	●	★	-	

凡例	▲ TAFIPQ75	■ TAFIPQ100	● TAFIPQ125	★ TAFIPQ150
----	------------	-------------	-------------	-------------

6-4. 配管組合せに対する選定(空調配管(発泡ポリエチレン被覆銅管)、3管式の場合)
各配管組合せに対する最適品番を以下に示します。

①	断熱被覆(保温材)の厚みは、液管 10mm 厚(3分の配管については 8mm 厚)、吐出ガス管・吸入ガス管 20mm 厚の場合を示しています。
②	各表は仕上り貫通穴径(コアドリル径=各品番の最大適合開口径)に対して施工した場合の目安です。
③	配管 1 系統につき制御ケーブル(CVV2mm ² ×4C相当、外径φ11.5)1本を同時貫通させた場合を想定しています。
④	下表に無い組合せは、適合可能な品番がございません。

表-11. 配管組合せに対する最適品番表(3管式の場合)



3管組合せ(配管外径、()内は保温厚)	適合品番
9.5(8)×12.7(20)×15.9(20)	TAFIPQ150
9.5(8)×12.7(20)×19.1(20)	
9.5(8)×12.7(20)×22.2(20)	
9.5(8)×12.7(20)×25.4(20)	
9.5(8)×12.7(20)×28.6(20)	
9.5(8)×15.9(20)×19.1(20)	
9.5(8)×15.9(20)×22.2(20)	
9.5(8)×15.9(20)×25.4(20)	
9.5(8)×19.1(20)×22.2(20)	
12.7(10)×15.9(20)×19.1(20)	
12.7(10)×15.9(20)×22.2(20)	
12.7(10)×15.9(20)×25.4(20)	
12.7(10)×19.1(20)×22.2(20)	
15.9(10)×19.1(20)×22.2(20)	

7. 施工上の注意事項




- ・ 本書および認定書に記載された認定条件、品番選定方法をよくお読みのうえ、適切な品番のものを正しく施工してください。
- ・ 品番選定早見表は設計数値(配管外径)に基づき算出しているため、現場状況・配管の摩擦等により施工が困難な場合があります。
- ・ 耐火パックは柔軟性がありますので、分解・切断等をせずそのままご使用ください。また、破損した場合は、充てん材が流れ出ないようにプラスチックテープ等で補修してご使用ください。
- ・ 万が一、袋が破れて充てん材が目に入った場合は、直ちに流水で洗い流し、医師の診断を受けてください。皮膚に付着した場合は、布または紙でふき取り、石鹼でよく洗浄してください。
- ・ 耐火パックを開口内に充てんする工法のため、開口径一杯に配管をした場合は施工できません。開口部の大きさには余裕を持たせてください。
- ・ 鋭利な物(ドライバー等)を使用しての充てんは行わないでください。
- ・ バックアップ材は壁工法には必要ありませんが、床工法には必ずご使用ください。
- ・ 配管が膨張・収縮することが予想されるため、押さえ金具は必ずご使用ください。
- ・ 配管の支持・固定は貫通部の前後で別途必ず行ってください。本製品には配管の支持機能はありませんので、支持・固定が不十分な場合は耐火パックがずれて隙間を生じる恐れがあります。
- ・ スラブや壁の厚み・配管の占積率によって、施工側(床上側)・反施工側(床下側)とも、スラブ面・壁面と防火処置面との間に段差が生じますが、防火性能上問題はありません。
- ・ 屋外でご使用の場合は、直射日光や雨水があたらないように処置してください。








8. 安全に関するご注意

ご使用前に「安全に関するご注意」をよくお読みいただき、正しくお使いください。ここに示した注意事項は、あなたや他の人への危害や損害を未然に防止するためのものです。

 警告	この表示を無視して誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。
 注意	この表示を無視して誤った取扱いをすると、人が傷害を負う可能性および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

◆図記号の意味は、次のとおりになっています。

	注意 : 気をつける必要があることを表しています。
	禁止 : してはいけないことを表しています。
	指示 : しなければならないことを表しています。

 警告		床開口部の施工後は踏み抜きに注意してください。防火措置部の上に乗ったり重量物を置いたりしないでください。
		子供・幼児の手の届くところに材料部材を置かないでください。
		単心の電力ケーブルが貫通する場合は周囲に鉄系の金具を配置しないでください。
		最大開口面積または直径以下で施工してください。
		ケーブル等の貫通物種類および貫通物占積率は、取扱説明書、認定書に従ってください。
		取扱説明書、認定書に従って施工してください。
	防火措置部は、出来る限り隙間のできないように施工してください。	
	液体状のものを扱う場合は保護メガネを着用してください。	
	繊維状または粉状のものを扱う場合は、マスクおよび保護メガネを着用してください。	
 注意		床または壁貫通部の周囲に可燃物を置かないでください。
		耐熱シール材等のパテを扱う際は保護具を着用してください。
		金具を扱う場合は保護具を着用してください。
		特殊な環境下で使用される場合は事前にご相談ください。
	材料は貫通部以外の部分に使用しないでください。	
		防水性が要求される場合は別途施工が必要となります。
		ケーブルまたは配管類の支持・固定機能はありません。別途、支持・固定をしてください。
施工完了後は工法表示ラベルを表示してください。再施工時も工法表示ラベルを更新してください。		

9. 免責事項

- (1) 防火区画貫通部措置が大臣認定または消防評定通りの耐火性能を得るためには、施工品質が大変重要になります。これらを施工するにあたり、大臣認定・消防評定条件、施工方法をよくご理解いただき、施工者および建物管理者の責任において施工および維持管理していただきますようお願い致します。
- (2) 以下のような場合において問題が生じた場合、弊社として責任を負いかねますのでご了承ください。
 - ① 大臣認定・消防評定条件以外の施工を行った場合(個別の取り決めに依る仕様は除く)
 - ② 弊社指定以外の材料を使用した場合
 - ③ 本来の使用目的以外に使用した場合
 - ④ 再通線・改修工事等において、不適切な施工により問題が生じた場合
 - ⑤ 「安全に関するご注意」を守らなかった場合
 - ⑥ 適切な維持・管理が行われていない場合
 - ⑦ 通常の経年変化(使用に伴う消耗、摩耗等)、経年劣化またはこれらに伴うほこりによる仕上りの変化の場合
 - ⑧ 周辺環境に起因する場合
(例えば、酸性・アルカリ性のガス、異常な高温・低温・多湿、結露等)
 - ⑨ 矩体の変形等、製品以外の不具合に起因する場合
 - ⑩ 犬・猫・鳥・鼠・蛇等の小動物、昆虫、ツルまたは根等の植物に起因する場合
 - ⑪ 犯罪、いたずら等の不法な行為に起因する場合
 - ⑫ 戦争・紛争・天災、その他の不可抗力による場合(例えば、暴風・豪雨・高潮・地震・落雷・洪水・地盤沈下等)
 - ⑬ 実用化されている技術では予測不可能な現象、またはこれが原因となる場合

10. その他

本施工要領書記載の内容は、製品改良等のため、お断りなく変更する場合がありますので、ご了承ください。

以上